

**第9回 IFAF Flag Football 世界選手権 パナマ大会
参加報告書**

2018年9月

フラッグ委員会

目次

1. 初めに

2. 大会概要と結果

- (1)～(8) 大会概要
- (9)結果

3. 日本代表チーム戦績

- (1)予選リーグ
- (2)決勝トーナメント
- (3)順位決定戦

4. 日本代表編成経過

- (1)代表監督の選考
- (2)選手選考会(トライアウト)
- (3)代表チーム公式練習
- (4)練習会場
- (5)渡航について
- (6)大会期間中
- (7)広報活動について

5. 各種課題

- (1)選考会・練習等
- (2)渡航費用関係
- (3)予算策定
- (4)大会期間中
- (7)広報活動について

6. 総括

- (1)代表チーム選出方法
- (2)その他

1.初めに

(4)練習場所

公式練習(含む選手選考会)を行うにあたり、練習場所の確保が非常に難しく JFA 内の人的ネットワークや両監督に頼ることとなった。

練習場所 富士通スタジアム川崎、アミノバイタルフィールド、富士通川崎グラウンド、渋谷区立中幡小学校、私立 駒込学園、東洋大学、日本体育大学 etc

(5) 2018 年 1 月に、当委員会において、IFAF FLAG FOOTBALL WORLD CHAMPIONSHIPS 2018 パナパ大会(以下「FFWC2018」という)に派遣する日本代表チームの編成を行うことが決定。

過去の大会には、日本選手権に優勝したクラブチームを、日本代表として派遣していた。

(いわゆるカーリング方式)

しかしながら、クラブチーム派遣という性格から、FFWC へ参加したことで得た経験や情報、世界水準の競技レベル等を自チーム内で消化するのみで、他のチームと共有することもないことから、国内の競技レベルの向上に繋がっていなかった。

また、近年女子は選手の減少と新たな選手の確保も出来ず、女子のクラブチームの編成もままならず、日本選手権の女子は、参加 2 チーム(そのうち、関西チームは、急遽、クラブチームを編成)で試合をし、その勝者を代表チームとしていた。

この現状を踏まえ、日本選手権優勝の単独チーム派遣から、チームや競技の枠を越えた広く優秀な人材を集め、また経験を広く共有することが出来るよう、選考会方式ではあるが、日本代表チームの編成作業を行うことにした。

初の選考会方式による代表チーム編成や、過去に参加した FFWC 参加のノウハウが当委員に蓄積されていなかったことから“手探り”となった代表編成・派遣であり、関係各方面にご迷惑をお掛けし、また、多大なご協力をいただいたことに感謝すると共に、大会結果と合わせその点を課題として報告したい。

2. 大会概要・結果

- (1)大会名称 IFAF FLAG FOOTBALL WORLDCHAMPIONSHIPS 2018
- (2)主 催 The International Federation of American Football (IFAF)
The American Football Federation of Panama (AFFP)
- (3)大会日程 2018年8月9日(木)～8月12日(日)
- 8月8日 大会前ミーティング(監督・コーチ参加)
- 8月9日～11日 グループリーグ予選
- 8月12日 順位決定戦 および決勝戦
- (4)開催地 パナマ共和国パナマ市
- (5)カテゴリー シニア男子(18歳以上)／シニア女子(18歳以上)
- (6)ルール 2017版 IFAF 国際ルール(5人制)
- (7)大会形式 予選:リーグ戦、決勝:トーナメント
- (8)出場国 男子 10カ国・女子 11カ国
- ・インド
 - ・オーストリア
 - ・デンマーク
 - ・イスラエル
 - ・カナダ
 - ・アメリカ
 - ・メキシコ
 - ・グアテマラ
 - ・パナマ
 - ・ブラジル(※女子のみ参加)
 - ・日本
- (9)結果
- | 男子 | 女子 |
|--------------|--------------|
| 優勝 アメリカ | 優勝 アメリカ |
| 2位 オーストリア | 2位 パナマ |
| <u>8位 日本</u> | <u>7位 日本</u> |

3.日本代表チーム戦績

(1)予選リーグ

男子グループA(アメリカ・オーストリア・パナマ・インド・日本)

女子グループA(パナマ・カナダ・ブラジル・グアテマラ・チェコ)

試合結果:大会一日目

日本代表男子 19-32 オーストリア 日本代表女子 40- 7 チェコ

日本代表男子 20-40 パナマ 日本代表女子 6-46 ブラジル

試合結果:大会二日目

日本代表男子12-45 アメリカ

日本代表男子35-39 イスラエル

日本代表男子57- 0 インド

試合結果:大会三日目

日本代表女子 6-38 パナマ

日本代表女子45- 6 グアテマラ

日本代表女子13-42 カナダ

男子 1勝3敗 予選 A ブロック 4 位通過⇒決勝ラウンド進出

女子 2勝3敗 予選 A ブロック 4 位通過⇒決勝ラウンド進出

(2)決勝トーナメント

試合結果:大会四日目

日本代表男子20-21 メキシコ(初戦敗退 順位決定戦へ)

日本代表女子 6-46 アメリカ(初戦敗退 順位決英戦へ)

(3)順位決定戦

日本代表男子 14-31 カナダ(5 位決定戦⇒7,8 位決定戦へ)

日本代表男子 33-60 パナマ(8 位決定)

日本代表女子 32-27 デンマーク(7 位決定)

4.日本代表編成経過

(1)代表監督の選考

代表監督は、これまでの国内での活動状況等を踏まえ、当委員会で有望な監督候補を複数名選出。それを受け日本代表チーム編成規定に基づき任命された。

男子監督:岩井歩氏

中野バグースに所属し、過去の世界選手権、アジアビーチゲームズにも選手として参加。

現在は早稲田クラブにてコーチをしている。

女子監督:兼安祥二氏

川崎フロンティアーズに所属し、日本選手権で優勝。また女子チーム(富士通マロンティアーズ)のコーチとして、チームを6度、優勝させている。

尚、コーチ、スタッフについても、日本代表チーム編成規定に基づき決定

男子コーチ、森裕貴氏

女子コーチ 杉田英司氏 女子スタッフ 西山薫氏

(2)選手選考会(トライアウト)

日本代表チーム選手選考会の参加者募集を JAJFA ホームページにて告知。

(3月20日~4月10日)

また、ハドルポウルや JADA の FB ページでも告知した。

・選考会開催日

東日本地区 4月15日(日) @アミノバイタルフィールド、

西日本地区 4月22日(日) @兵庫県尼崎市内

・応募状況

東日本地区 38名(男子22名 女子16名)

西日本地区 28名(男子21名 女子7名)

合計 66名(※関東・関西以外からの参加者茨城1名福岡2名.長崎1名.北九州1名.愛知1名.)

・代表チーム概要(男女共選手15名)、

上記、選考会の結果等を踏まえ岩井・兼安両監督がリストアップした男女各15名が日本代表チーム編成委員会の承認を経て決定した。

・代表メンバー地域構成

男子(関東 10 名、関西 2 名、九州 3 名)

女子(関東 13 名、関西 1 名、東海 1 名)

※今回の選考会開催に際し、関東学生女子タッチフットボール連盟(JTFA)を通じて参加を呼びかけたところ 5 名の応募があり、3 名が女子日本代表に選出された。

(3)代表チーム公式練習

当初、当委員会では、代表チーム編から派遣までの間の公式練習を 3 回程度と考えていた。

しかしながら、男女両監督から「日本代表チームである以上、可能な限り練習をしたい」という強い希望があり、これを受けて、公式練習を 5 回に増やし、後に 8 回とした。

練習場所を、首都圏と想定していたので、地方から参加する選手に対して、遠隔地よりの参加者について東海地方は 1 万円、関西地方は、2 万円、九州地方は 3 万円の交通費補助として支給した。

(5)渡航について

渡航手配については予めより JAJFA で実績のある鹿島ツーリスト(航空券・海外旅行保険)に依頼。

同社は、従来使用していた格安航空券を販売する業者と比べ、やや割高ではあるが、航空券の名入れ、発券まで時間的な余裕が生まれたことにより、代表辞退者、怪我による代表選手のリプレイス等が可能となった。

(海外旅行保険は、U19 の選手が加入したものを踏襲し、全選手、スタッフ、監督が加入)

また、今回の遠征に際し、U19 の世界選手権参加時に選手に配布された「渡航前説明書」と「遠征費案内」を参考に FFWC 版を作成し配布した。

「渡航前説明書」…代表としての心構え、並びに、旅程、渡航先での注意点などを記載。

「遠征費案内」……選手各個人にかかる費用を明らかにし、JAJFA 口座への入金を案内

(6)大会期間中

開催地であるパナマは中南米に位置し、外務省海外安全情報で「レベル1(十分気を付けてください)」となっていることもあり、選手の安全面への懸念から当初は参加の是非も検討された。

しかしながら現地、大会実行委員会により安全面への配慮(ホテル⇄試合会場 セキュリティ付バス送迎等)が一定レベルを確保していることや、米国をはじめ各国チームが参加する等を総合的に判断し、派遣することを決定した。また、大会行程(期間・日数)の問題もあり、当委員会からは CDM(GM)を帯同させることが出来ず、現地では男女両監督の指示に従い、会場とホテルを往復するのみで事件・事故に巻き込まれることはなかった。

しかしながら、酷暑と水の影響(ミネラルウォーターでさえ)で、多くの選手が下痢の悩まされうち、男子選手2名は脱水症状が見られ現地で点滴を受けた

また、女子選手1名が試合中の受傷により「前十字靭帯断裂」と診断されたほか、もう1名が「 Dengue熱」の陽性反応がでた為、ホテル待機となった。今回の大会参加にあたり、チームドクターやトレーナーを帯同させなかったことから、大会実行委員会が大会用に手配したドクター・トレーナーが対応してもらうこととなった。参加各国のドクター、トレーナーの帯同については、確認できなかった。また、現地病院へは、本大会と同時開催されていたIFAF総会の出席していた金氏常務理事に付き添っていただく結果となった。

受傷選手のその後の状況

前十字靭帯断裂を診断された選手は、帰国後、再度、国内で医療機関に受診し、9月12日入院、翌日、手術を受けた。経過は良好で、リハビリ中との報告を受けた。

Dengue熱の陽性反応が出た選手も、帰国後、速やかに再受診した。その結果、Dengue熱の疑いはなく、現在は、通常の日常生活を送っているとの報告を受けた。

(7) 広報活動について

JAJFA HP、JAJFA 公式 Facebook を通じて練習や試合結果を発信したが、掲載内容の確認作業等もあり、必ずしもタイムリーとは言えず、また、掲載内容は遠征中の代表チームコーチやスタッフに依頼することになった。

国内では上記に加え、人的ネットワークを介しベースボールマガジン社の「アメリカンフットボールマガジン」にて web 配信された。

5. 各種課題

今回の編成・派遣についてはあらゆる場面で課題が発生したので、項目別に記載する

(1) 選考会

選考会を東西2会場としたことで、男子は関東から九州まで幅広く応募があったが女子は、タッチフットボール経験者の応募と代表選出はあったものの、従来の特定チームから応募と選出が主体となってしまった(ならざるを得なかった)ことは、女子フラグの競技人口増加が急務であると感じさせた。

また、選考会場と運営スタッフの確保が難航し、人的ネットワークにより何とか最低限は確保できたものの、頼らざるを得なかった。

また、選考基準となる各種測定において、手動での測定となったことで、その値が精緻とは言えず、一部参加選手より公平性について疑問視する声があった。

(2)練習

①回数

委員会計画策定時(当初3回⇒最終8回)と監督・選手の意向(毎週末)に大きな差があり結果、練習会場確保は辛うじてできたものの、選手の交通費負担が多大となった。

②場所

女子はマロティアーズ在籍の監督、コーチに選手主体のため富士通フロンティアーズの全面協力を得られたが、男子が難航、社会人協会・関東学連の協力はあったものの、こちらも人的ネットワークに頼ることとなった。
また、ギリギリの調整のため直前まで練習会場が決まらず、これにより特に遠征参加の地方組が宿泊先の手配等スケジュールを立てづらい状況を招いた。

(3)大会期間中

①ドクター・トレーナーの帯同

単に予算だけではなく、人材的にも難しいのかもしれないが、日常英会話可能なトレーナーを1名、国内での練習時も含め帯同させる必要があると痛感した。

FFWCに参加した他国では、ドクター、トレーナーの帯同については、確認できなかった。

また、今回、脱水症状により点滴を受けた選手は、アンチドーピングの規定で出場を取り消される可能性があったことから、アンチドーピングの知識を有した、スタッフが必要になってくると思われる。

②CDMの帯同

今回、当委員会より各委員の仕事の都合もあり、誰も帯同することが出来なかった。結果、両監督に兼務でCDMを任せることとなり、ゲームのみに集中することが難しくまた、大会実行委員会とチーム間のパイプ役が不在となったことで、齟齬が生じたり男子・女子チーム間の情報共有が出来ず、度々支障となった。
次回以降の国際大会については CDM が不可欠と考える

(4) 広報活動について

事実上、初の選抜方式による日本代表組成にもかかわらず、そのアウトプットが JAF A の公式 FB のみで決して十分ではなかったと感じる。掲載内容の確認・表現等一定の制約があるのは仕方がないが、SNS がこれほど活用されている中で、タイムリーな情報の提供や発信は今後の大きな課題と考える。

今後は、代表編成にあたり、両チームのスタッフにチーム広報担当を決めてもらい、チーム情報、練習情報、現地での活動をタイムリーな状況で Facebook などに記事を書いていたけような、体制作りも必要である。また、現地入りしてからは、スタッフは謀殺されるため、スタッフとは別に、CDM が兼務するもしくは広報担当を現地へ派遣することも検討すべき。

併せて、国内に於いてもメディアに対するプレスリリースが必要と考える。

6. 総括

(1) 代表チーム選出方法について

今回、従来のカーリング方式から、選抜方式(トライアウトによる)による代表チーム派遣とした。カーリング方式としなかったことで、練習会場の確保等の様々な問題が発生はしたものの、監督・選手らによればチームとして一定のレベルは確保できた等の、概ね好意的な感想を得ている。

次回の派遣については、委員会内で更なる議論のうえ、その方法を決定したい。

(2) その他

今回の派遣事業の為に、特別会計予算を計上した。

本来、事業をスムーズに進行するための予算であるが、委員の大半が初の代表チーム編成・派遣事業であったことを割り引いても、すべての項目で見積もりが甘く、また予期しない所での支出が生じたことから、多くの関係者にご迷惑をお掛けすることとなり、JAF A から特別補正予算を計上していただくこととなった。

また、選考会場や練習場所確保の面においても個人的ネットワークによる確保という俗人ベースに頼らざるを得なかった。

JAF A 社員のネットワークを生かした安定的スタッフや練習場確保が出来るような体制づくりが必要と考える。

以 上